

[A年]復活節第7主日(2021年5月16日)**【旧約聖書日課】エレミヤ書10章1～10節**

1イスラエルの家よ、主があなたたちに語られた言葉を聞け。2主はこう言われる。

異国の民の道に倣うな。

天に現れるしるしを恐れるな。

それらを恐れるのは異国の民のすることだ。

3 もろもろの民が恐れるものは空しいもの

森から切り出された木片

木工がのみを振るって造ったもの。

4 金銀で飾られ

留め金をもって固定され、身動きもしない。

5 きゅうり畑のかかしのようで、口も利けず

歩けないので、運ばれて行く。

そのようなものを恐れるな。

彼らは災いをくらすことも

幸いをもたらすこともできない。

6 主よ、あなたに並ぶものはありません。

あなたは大きな方

御名には大きな力があります。

7 諸国民の王なる主よ

あなたを恐れないものはありません。

それはあなたにふさわしいことです。

諸国民、諸王国の賢者の間でも

あなたに並ぶものはありません。

8 彼らは等しく無知で愚かです。

木片にすぎない空しいものを戒めとしています。

9 それはタルシシュからもたらされた銀箔

ウファズの金、青や紫を衣として

木工や金細工人が造ったもの

いずれも、巧みな職人の造ったものです。

10 主は真理の神、命の神、永遠を支配する王。

その怒りに大地は震え

その憤りに諸国の民は耐ええない。

【使徒書日課】エフェソの信徒への手紙4章1～16節

1そこで、主に結ばれて囚人となっているわたしはあなたがたに勧めます。神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み、2一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、3平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。4体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。5主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、6すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを通して働き、すべてのものの内におられます。

7しかし、わたしたち一人一人に、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられています。

8そこで、

「高い所に昇るとき、捕らわれ人を連れて行き、人々に賜物を分け与えられた」

とされています。

9「昇った」というのですから、低い所、地上に降りておられたのではないのでしょうか。10この降りて来られた方が、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも更に高く昇られたのです。11そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。12こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、13ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。14こうして、わたしたちは、もはや未熟な者ではなくなり、人々を誤りに導こうとする悪賢い人間の、風のように変わりやすい教えに、もてあそばれたり、引き回されたりすることなく、15むしろ、愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長していきます。16キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことによってしっかり組み合わせられ、結び合わされて、おのおのの部分は分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。

【福音書日課】ルカによる福音書24章44～53節

44イエスは言われた。「わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する。これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである。」45そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、46言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。47また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣傳えられる』と。エルサレムから始めて、48あなたがたはこれらのことの証人となる。49わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」

50イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。51そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。52彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、53絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた。

「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

エレミヤ書10章1～10節

1イスラエルの家よ、主があなたがたに語られた言葉を聞け。2主はこう言われる。

諸国民の道に倣ってはならない。

天のしるしにおののいてはならない。

諸国民がそれらにおののくのだ。

3 もろもろの民の習わしは空しい。

それは、森から切り出された木

木工の手によって斧で造られたもの。

4 銀と金で飾られ

釘と槌で固定され、動くこともない。

5 それはきゅうり畑のかかしのように

話すこともできず

ただ運ばれて行く、歩けないのだから。

そのようなものを恐れてはならない。

それらは災いを下すこともなければ

幸いをもたらすこともない。

6 主よ、あなたのような方はいません。

あなたはたいなる方

あなたの名は偉大で、力に満ちています。

7 諸国民の王なる方よ

誰があなたを恐れずにいられるでしょうか。

それはあなたにふさわしいことです。

諸国民のすべての知者たちの中にも

そのすべての王国の中にも

あなたに並ぶ者はありません。

8 彼らは等しく浅はかで愚かです。

空しいものの戒め、それはただの木。

9 銀箔はタルシシュから

金はウファズからもたらされる。

木工や細工師の手が造ったもの。

そ衣は青と紫。

それらはどれも、熟練者たちが造ったもの。

10 主は真理の神、命の神、永遠の王。

その怒りに地は震え

その憤りに諸国民は耐えられない。

エフェソの信徒への手紙4章1～16節

1ですから、主の囚人である私は、あなたがたに勧めます。招かれたあなたがたは、その招きにふさわしく歩み、2謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、3平和の絆で結ばれて霊による一致を保つよう熱心に努めなさい。4体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれたのと同じです。5主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つです。6すべてのものの父なる神は唯一であって、すべてのものの上であり、すべてのものを貫き、

すべてのもののおられます。7しかし、私たち一人一人に、キリストの賜物の秤〔別訳→程度〕に従って、恵みが与えられています。8そこで、こう言われています。

「高い所に昇るとき捕らえた者を引いて行き人々に贈り物を分け与えられた」と言われています。

9「昇った」というのですから、低い所、地上に降りておられたのではないのでしょうか。10この降りて来られた方ご自身が、すべてのものを満たすために、あらゆる天よりもさらに高く昇られたのです。11そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師としてお与えになりました。12こうして、聖なる者たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストの体を造り上げ、13ついには、私たちすべてが、信仰と神の子の知識〔別訳→神の子への侵攻と知識〕において一つとなり、完全な者となって、キリストの満ち溢れる成熟した年齢に達するのです。14こうして、私たちはもはや子どもではなくなり、人の悪だくみや、だまし惑わす策略によるどのような教えの風にも弄ばれたり、振り回されたりすることなく、15愛をもって真理を語り、頭であるキリストへとあらゆる点で成長していくのです。16キリストによって、体全体は、支えとなるすべての節々でつながり合わせられ、一つに結び合わされて、それぞれの部分は分にに応じて働いて、体を成長させ、愛の内に造り上げられてゆくのです。

ルカによる福音書24章44～53節

44イエスは言われた。「私がまだあなたがたと一緒にいたときに、語って聞かせた言葉は、こうであった。すなわち、私についてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてあることは、必ずすべて実現する。」45そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、46言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。47また、その名によって罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まって、すべての民族に宣べ伝えられる。』48あなたがたは、これらのことの証人である。49私は、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力を身に着けるまでは、都にとどまっていなさい。」

50それからイエスは、彼らをベタニアまで連れて行き、手を上げて祝福された。51そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。52彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに戻り、53絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた。

黙想のためのノート**次主日聖書日課について**

・5月16日「復活節第7主日」の日課主題は「キリストの昇天」。キリストの「昇天日」は、「使徒言行録」1:3の記述に基づき、「復活日(イースター)」から40日目にあたる木曜日に記念されてきたが、近年は、平日の祝祭行事執行が困難な伝道地での事情に合わせて、「復活節第7主日」を「昇天主日」と位置づけて記念する習慣が定着してきた。教団聖書日課でも、「復活節第7主日」の使徒書日課および福音書日課を「キリストの昇天」に関連する箇所から設定している。

・キリストの「昇天」は、神学的には広義の「復活」に含まれる出来事として解釈されてきた。すなわち、「復活」が単に「死者の蘇生」ではなく、「死者の領域から神の領域へと引き上げ」であり、「神の右に座し」と表現されるように復活させられた方と神との最終的な一致を示す象徴的出来事として描かれるとき、「昇天」は「死者の中からの復活」の完成を意味する表現となる。一方、「昇天」という現象表現が用いられたことは、「終末論」における「主の来臨」という預言者の神学がキリストに適用され、キリストの「再臨」信仰として初代教会の中で重要な意味を持つようになった。「マラキ書」3章などに特徴的に示される終末の「主の日」に「主」が来臨されるという預言的希望の中には、「列王記下」2章の記述にあるとおりの「昇天」伝承を持つ「預言者エリヤ」の「主の日」に先立つ「再臨」が語られている。旧約において「昇天」した者として扱われるのは、「エリヤ」のほかにはノア以前の人物である「エノク」(創5:24)しかおらず、これが「エリヤ」を特別な存在にしているが、それによって、キリストについて「昇天」が語られるときにも自ずと「再臨」が語られることになったと推認される。「モーセ」にも昇天伝説があるが、それは、「申命記」34章の記述の中で、モーセは主ご自身の手によって葬られたのでその墓地を誰も知らない、と語られていることに端を発して生まれてきた伝説であると考えられる。「福音書」は、主イエスが「高い山の上」でエリヤとモーセに出会うという逸話を伝えており、このモーセ昇天伝説を前提にしているが、「旧約」で明確にモーセの昇天が語られる箇所はない。

旧約日課(エレミヤ 10 章より)

・「エレミヤ書」は、ユダヤ正典「後の預言者」の第二巻として扱われる預言書で、前7世紀末の南王国ヨシヤ王時代から王国滅亡・捕囚時代にかけて預言活動をした「預言者エリヤ」の預言とその活動を伝える。エレミヤは、ヨシヤ王時代に行われた改革の中心的担い手となった祭司・預言者集団の一人と考えられる人物だが、「エレミヤ書」に収められている内容の多くは、ヨシヤ王時代ではなく、ヨシヤ王没後の王国末期にバビロニア傀儡政権下で非主流派に押しやられた立場のエレミヤが、政権主流派との間で抗争する中で語った預言や、その逸話によって構成されている。

これらの文書を作成し保存させたのは、「ネリヤの子バルク」(エレミヤ 32:12 以下など参照)と呼ばれる「書記官」の役職にあった人物であると考えられる。「バルク」の名で伝えられる文書が、「旧約聖書続編(第二正典)」の中に「バルク書」として収められている。ただし、正典としての「エレミヤ書」の編纂は段階的に進められたと考えられ、エレミヤに関連してバラクの残した諸文書をどのように再構成するのかという点で異なる編纂作業が複数実行されたと考えられる証拠(異なる編集がされた「エレミヤ書」写本)が知られている。「エレミヤ書」は、「イザヤ書」および「エゼキエル書」と共に、正典「律法と預言者」編纂における主要な神学的立場を提示する文書として位置づけられたと考えられるが、この三者の「預言者」の中でも歴史上の「預言者エレミヤ」は、捕囚期後に正典編纂を中心的に担うことになったであろう「祭司＝預言者の伝統継承集団」の実質的な創始者の一人と考えられ(「預言者イザヤ」は、本人の意図ではなく、後進の意図により「祭司＝預言者の伝統」の始祖のように扱われたと考えられる)、エレミヤの「預言」や「預言者としての逸話」をどのように扱うかということについて評価が定まるまで時間を要したのであろう。おそらくそのような経緯から、正典「エレミヤ書」は、必ずしも時代順に編集配置されておらず、構成意図も明瞭ではない。

・日課箇所を、歴史批評的立場の旧約学者の多くは、「第二イザヤ」と同時代の捕囚期末期～ユダヤ帰還期の人物による預言とみなす。すなわち、鑄造・彫像されたいわゆる「偶像」に対する痛烈な皮肉を込めた描写は、バビロンにおけるマルドゥク神の壮大な祭儀を知るようになった者に対してこそ意味を持つと考えられるというのである。しかし、すくなくともアッシリア覇権時代にはユダ・イスラエルでもバビロン・マルドゥク神を中心とするメソポタミア文化下の壮大な宗教祭儀は知られていたと考えられ、それに比して、エルサレム神殿からは繰り返し祭具・宝物が宗主国に奪われ、貧相な(何ら目立った偶像の無い!)祭儀しか行われなくなっていたと考えられる。すると、エレミヤらヨシヤ王時代に神殿と王宮の改革に着手した祭司・預言者らは、より明確に「偶像」を排除した神礼拝を打ち出さざるを得なかったはずである。

使徒書日課(エフェソ 4 章より)

・「エフェソの信徒への手紙」は、使徒パウロが自ら教会形成にも関わってきたエフェソの教会(使徒 19:1 以下、同 20:17 以下参照)に宛てて書き送った書簡として伝えられてきたが、「コロサイの信徒への手紙」と共に、諸教会で回覧されることを前提に一般的な教えを記した説教(奨励)文書として構成されている。両書簡と「フィリピの信徒への手紙」、「フィレモンへの手紙」を合わせて、パウロが幽閉中に牢獄から記した「獄中書簡」とみなされているが、歴史批評的立場の学者は、パウロの弟子の手による書簡とみなしている。

・本書簡の「エフェソ」の教会は、「コロサイ書」で取り上げられる「ラオディキア」の教会と共に、「ヨハネ黙示録」が「アジアの七つの教会」と呼ぶ教会の一つと考えられる。「ヨハネ黙示録」は、新約正典中では例外的な「黙示文学」的表現に満ちた文書であるが、アナトリア半島西端のエーゲ海に面する「アジア州」地域では、東方思想に由来する「黙示」思想が文化的に広く浸透していたものと考えられる。「エフェソ書」もまた、「I コリント書」や「ローマ書」で取り上げられているような「賜物＝教会論」を、東方「黙示」思想に由来する宇宙論的キリスト論・教会論として展開させていると見ることができる。

福音書日課(ルカ 24 章より)

・「昇天」の出来事を伝える逸話は、「ルカ福音書」と続巻「使徒言行録」で重複して置かれている。両巻とも、「昇天」を続く「聖霊降臨」に向けてのプロセスと見ており、弟子たち(の教会)にとっての主イエス・キリストの役割が「聖霊」によって置き換えられたと見る教会観に立脚している。このような「聖霊」理解は、「ヨハネ福音書」でも明確であるが、「ヨハネ福音書」の場合は、主イエスの「昇天」という出来事を殊更取り上げることせず、「十字架～死と復活」を「栄光を受ける」こと、「上げられる」こととして、区別せずに理解している。

・日課箇所主イエスが昇天された場所として明示されている「ベタニア」は、福音書が共通して「重い皮膚病の人シモン」の家がある村として伝え、主イエスのエルサレムにおける滞在先として描いている。この「シモン」は、おそらく「ヨハネ福音書」の伝える「ラザロ」とも同一人物である。ラザロは、二人の姉妹(マルタとマリア)と共に主イエスと特別な親友関係にあったと紹介される人物である。ベタニアはオリーブ山の麓にあったとされるので、ここで「ベタニアの辺り」と言われているのは、最後の晩にも祈りをするために行かれた「いつもの」(ルカ 22:39)場所であったのかもしれない。

来週の誕生日 (5月16日～22日)

主日礼拝の讃美歌から

- ・21-337 番「たたえよ、この日」は、18 世紀メソジスト派の始祖の一人 C.ウェスレーの作詞。原歌詞は 10 節までであるが、英語讃美歌集では適宜組み合わせられた節によって編纂されてきた。曲は、盲目のアマチュア音楽家 R.ウィリアムズの作曲とされるが、19 世紀の讃美歌集で作者不詳のまま「ウェールズの讃美歌曲」として組み合わされて以来、用いられてきた。
- ・21-487 番「イエス、イエス」は、20 世紀スコットランド教会で按手を受けアフリカ宣教に従事した宣教師 T.S.コルヴァンが現地信徒ら自身に伝統音楽に基づいて創作させた讃美歌集『*Fill Us With Your Love*』に収録された讃美歌の一つ。「主の洗足」の記事に基づいて主の愛に従う道を歌う。
- ・21-514 番「美しい天と地の造り主」(= I 449「あめつちの主なるおお御神」)は、20 世紀カナダで

YWCA 活動に従事したメアリー・エドガーがキャンピングソングとして作詞した歌詞。曲は、19 世紀英国教会司祭プリンジャーが趣味で作曲して残した曲の一つ。

21-337「たたえよ、この日」

Hail The Day That Sees Him Rise

1. Hail the day that sees him rise, Alleluia! / to his throne beyond the skies. Alleluia! / Christ, the Lamb for sinners given, Alleluia! / enters now the highest heaven. Alleluia!
2. There for him high triumph waits; Alleluia! / lift your heads, eternal gates. Alleluia! / He has conquered death and sin; Alleluia! / take the King of glory in. Alleluia!
3. Highest heaven its Lord receives; Alleluia! / yet he loves the earth he leaves. Alleluia! / Though returning to his throne, Alleluia! / still he calls us all his own. Alleluia!
4. Still for us he intercedes; Alleluia! / his atoning death he pleads, Alleluia! / near himself prepares our place, Alleluia! / he the firstfruits of our race. Alleluia!
5. There we shall with you remain, Alleluia! / partners of your endless reign, Alleluia! / see you with unclouded view, Alleluia! / find our heaven of heavens in you. Alleluia!

21-487「イエス、イエス」

Jesus, Jesus, Fill Us with Your Love

Refrain:

- Jesu, Jesu, fill us with your love, / show us how to serve / the neighbors we have from you.
1. Kneels at the feet of his friends, / Silently washes their feet, / Master who pours out himself for them. [Refrain]
 2. Neighbors are wealthy and poor, / Varied in color and race, / Neighbors are nearby and far away. [Refrain]
 3. These are the ones we should serve, / These are the ones we should love: / All these are neighbors to us and you. [Refrain]
 4. Kneel at the feet of our friends, / Silently washing their feet: / This is the way we should live with you. [Refrain]

21-514「美しい天と地の造り主」

God, who touchest earth with beauty

1. God who touchest earth with beauty, / Make my heart anew; / With thy Spirit recreate me / Pure and strong and true.
2. Like thy springs and running waters, / Make me crystal pure; / Like thy rocks of towering grandeur, / Make me strong and sure.
3. Like thy dancing waves in sunlight, / Make me glad and free; / Like the straightness of the pine trees / Let me upright be.
4. Like the arching of the heavens, / Lift my thoughts above; / Turn my dreams to noble action, / Ministries of love.
5. Like the birds that soar while singing, / Give my heart a song; / May the music of thanksgiving / Echo clear and strong.
6. God who touchest earth with beauty, / Make my heart anew; / Keep me ever by thy Spirit / Pure and strong and true.